

授業科目	脳神経疾患身体障害支援学概論				
担当者	石倉隆・藪中良彦・岩田篤				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	1 年 or 2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

養成課程で修得した基礎的な身体・認知機能、日常生活活動の知識と個別の障害に対応する基本的な治療技術を基盤に、養成教育では不十分であるにもかかわらず、科学的根拠に基づいた技能の実践には必要不可欠な脳機能解剖学、神経生理学、運動生理学、脳画像読影法などを教授し、その知識を用いて evidence based rehabilitation (EBR) が実践できる能力を身に付ける。これらの能力を駆使して、各種脳神経疾患の評価、リハビリテーション方法論についてグループディスカッションを行うと共に、模擬症例で教員主導のカンファレンスを実施しグループディスカッションを行う。

■ 到達目標

- ・身体機能に係る脳機能解剖、脳神経生理を理解する。
- ・身体機能に係る脳機能解剖、脳神経生理の知識をもとに脳画像に投影できる。
- ・EBR の実践方法を理解する。
- ・脳神経疾患の神経生理学、神経病理学、症候学を理解する。
- ・脳神経疾患の根拠あるリハビリテーションを構築できる。

■ 授業計画

(1 回 1 コマ)

- 第1回 脳神経疾患リハビリテーションにおける脳科学の重要性 (石倉 [実務家教員])
(実務家教員や実務家による授業)
- 第2回 身体機能に係る脳機能解剖学1 (石倉 [実務家教員])
(実務家教員や実務家による授業)
- 第3回 身体機能に係る脳機能解剖学2 (石倉 [実務家教員])
(実務家教員や実務家による授業)
- 第4回 身体機能に係る脳画像読影法 (石倉 [実務家教員])
(実務家教員や実務家による授業)
- 第5回 脳神経疾患リハビリテーションにおける EBR 実践法演習 [グループディスカッション] (石倉 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第6回 脳神経疾患リハビリテーション評価法 (成人)：講義とグループディスカッション (石倉 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第7回 脳神経疾患リハビリテーション評価法 (小児)：講義とグループディスカッション (藪中 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第8回 脳卒中の病理学と症候障害学：講義とグループディスカッション (石倉 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第9回 脳卒中のリハビリテーション方法論：講義とグループディスカッション (石倉 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第10回 神経変性疾患の病理学と症候障害学：講義とグループディスカッション (岩田 [実務家教員])
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)

- 第11回 神経変性疾患のリハビリテーション方法論：講義とグループディスカッション（岩田 [実務家
教員]）
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第12回 脳性麻痺の病理学と症候障害学：講義とグループディスカッション（藪中 [実務家教員]）
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第13回 脳性麻痺のリハビリテーション方法論：講義とグループディスカッション（藪中 [実務家教員]）
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第14回 模擬症例によるリハビリテーションカンファレンス（成人）[グループディスカッション]（石倉 [実
務家教員]・藪中 [実務家教員]・岩田 [実務家教員]）
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）
- 第15回 模擬症例によるリハビリテーションカンファレンス（小児）[グループディスカッション]（藪中 [実
務家教員]・石倉 [実務家教員]・岩田 [実務家教員]）
（双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業）（実務家教員や実務家による授業）

■ 評価方法

第1回から第13回までに培った知識や臨床推論を駆使して、第14、15回のリハビリテーションカンファ
レンスを展開する。

リハビリテーションカンファレンスの討議内容 $20\% \times 2 = 40\%$

リハビリテーションカンファレンスレポート $30\% \times 2 = 60\%$

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義前に、次回の講義内容とそれまでに学習しておくべき課題を提示する。

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

書名：別途、紹介する。

■ 留意事項

模擬症例は、教員が施設や対象者から承諾を得た、実際の患者を提示する。十分に守秘することを求める。

■ 講義受講にあたって

健常者、障がい者を問わず、疾病や障がいの予防、健康の維持増進、障がいの改善などの観点から多角的、
総合的に生活機能支援を理解し分析できるようになることで、脳神経疾患身体障害支援学特論及び特論演
習を学ぶための最新の基礎知識と技能を獲得する。